

問題6-2

【問1】①：（ア）正（イ）正

ア) 〈資料1〉の貸借対照表は資産の部が流動資産から、負債の部が流動負債から始まっているため、流動性配列法が採用されている。

〈流動性配列法〉		〈固定性配列法〉	
流動資産	流動負債	固定資産	固定負債
	固定負債		流動負債
固定資産	純資産	流動資産	純資産

イ) 〈資料1〉の貸借対照表は資産、負債、純資産の順に配列されているため、報告式の様式が採用されている。

〈勘定式の貸借対照表〉		〈報告式の貸借対照表〉
	負債	
資産	純資産	資産
		負債
		純資産

【問2】④：（ア）誤（イ）誤

ア) 土地は減価償却を行わない。

* 他には建設仮勘定なども減価償却の対象とはならない。

イ) 減価償却費は販売費及び一般管理費に含まれる。

売上高	× × ×	
売上原価	× × ×	
売上総利益	× × ×	
販売費及び一般管理費	× × ×	← 減価償却費
営業利益	× × ×	
営業外収益	× × ×	
営業外費用	× × ×	
経常利益	× × ×	
～	～	

【問3】①：（ア）正（イ）正

ア）資産合計の増減率（14.3%）よりも売上高の増減率（50.0%）の方が大きい。

* 増減率＝伸び率（伸び率の指標は常にプラスとは限らず、マイナスの場合もあり、双方を正確に表現するために増減率と呼ぶことがある。）

* 資産合計の増減率14.3%＝ $(X2年度の資産合計4,000 - X1年度の資産合計3,500) / X1年度の資産合計3,500 \times 100$

* 売上高の増減率50.0%＝ $(X2年度の売上高3,000 - X1年度の売上高2,000) / X1年度の売上高2,000 \times 100$

イ）売上高（X1年度2,000→X2年度3,000）、売上総利益（X1年度800→X2年度1,500）、営業利益（X1年度500→X2年度800）、経常利益（X1年度500→X2年度700）、当期純利益（X1年度300→X2年度360）いずれも増加しているため、増収増益。

* 増収増益とは、売上高と利益がともに増加していることを指す。

【問4】②：（ア）正（イ）誤

ア）X2年度の営業利益の対前年度伸び率は60.0%であり、50%を上回っている。

* X2年度の営業利益の対前年度伸び率60.0%＝ $(X2年度の営業利益800 - X1年度の営業利益500) / X1年度の営業利益500 \times 100$

* 伸び率は正確には対前年度伸び率という。

* 対前年度比率（＝X2年度の営業利益 / X1年度の営業利益×100）と混同しやすいので注意。

イ）X3年度の当期純利益は432百万円となり、450百万円を下回っている。

* X3年度の当期純利益432＝X2年度の当期純利益360×（100%＋X3年度の対前年度伸び率20.0%）

* X3年度の当期純利益の対前年度伸び率20.0%
＝X2年度の当期純利益の対前年度伸び率20.0%

* X2年度の当期純利益の対前年度伸び率20.0%＝ $(X2年度の当期純利益360 - X1年度の当期純利益300) / X1年度の当期純利益300 \times 100$

【問5】④：（ア）誤（イ）誤

ア）X1年度の売上高売上原価率60.0%＝売上原価1,200 / 売上高2,000×100

イ）売上高売上原価率はX1年度（60.0%）の方がX2年度（50.0%）よりも高い。

* X2年度の売上高売上原価率50.0%＝売上原価1,500 / 売上高3,000×100

【問6】④：（ア）誤（イ）誤

ア）売上高営業利益率（X1年度25.0%→X2年度26.7%）は改善したが、売上高当期純利益率（X1年度15.0%→X2年度12.0%）は悪化した。

* X1年度の売上高営業利益率25.0%＝営業利益500 / 売上高2,000×100

* X2年度の売上高営業利益率26.7%＝営業利益800 / 売上高3,000×100

* X1年度の売上高当期純利益率15.0%＝当期純利益300 / 売上高2,000×100

* X2年度の売上高当期純利益率12.0%＝当期純利益360 / 売上高3,000×100

イ) 売上高販売費及び一般管理費率はX1年度 (15.0%) からX2年度 (23.3%) にかけて悪化しているため、売上高営業利益率が改善した要因にはならない。(売上高売上原価率はX1年度 (60.0%) からX2年度 (50.0%) にかけて改善しているため、売上高営業利益率が改善した要因となる。)

* X1年度の売上高販売費及び一般管理費率15.0% = 販売費及び一般管理費300 / 売上高2,000 × 100

* X2年度の売上高販売費及び一般管理費率23.3% = 販売費及び一般管理費700 / 売上高3,000 × 100

	X1年度		X2年度
売上高	100.0%		100.0%
売上原価率	<u>60.0%</u>	改善 →	<u>50.0%</u> ← 問5参照
売上総利益率	<u>40.0%</u>		<u>50.0%</u>
販売費及び一般管理費率	<u>15.0%</u>	悪化 →	<u>23.3%</u>
営業利益率	<u>25.0%</u>		<u>26.7%</u>

【問7】③：(ア) 誤 (イ) 正

ア) 流動比率は、安全性分析指標の一つである。

イ) 流動比率はX1年度 (188.3%) よりもX2年度 (210.0%) の方が高く、X1年度からX2年度にかけて改善した。

* X1年度の流動比率188.3% = 流動資産1,130 / 流動負債600 × 100

* X2年度の流動比率210.0% = 流動資産1,470 / 流動負債700 × 100

【問8】①：(ア) 正 (イ) 正

ア) 問題文の通り。

* 総資本経常利益率 (ROA) = 経常利益 / 総資本 × 100

* 株主の出資に対する収益性を判断するための指標である、自己資本当期純利益率 (ROE) (= 当期純利益 / 自己資本 × 100) と混同しないように注意。

イ) 総資本経常利益率はX1年度 (14.3%) よりもX2年度 (17.5%) の方が高く、X1年度からX2年度にかけて改善した。

* 総資本 = 資産合計

* X1年度の総資本経常利益率14.3% = 経常利益500 / 資産合計3,500 × 100

* X2年度の総資本経常利益率17.5% = 経常利益700 / 資産合計4,000 × 100

【問9】④：(ア) 誤 (イ) 誤

ア) 総資本経常利益率 (ROA) は売上高経常利益率、総資本回転率の2つの指標に分解することができる。

* 売上高当期純利益率、総資本回転率、財務レバレッジの3つの指標に分解できる自己資本当期純利益率 (ROE) と混同しないように注意。

* 総資本経常利益率 (ROA)	=	$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}}$	×	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	
		↑		↑	
		売上高 経常利益率		総資本 回転率	
⇒ 自己資本当期 純利益率 (ROE)	=	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	×	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	×
		↑		↑	↑
		売上高 当期純利益率		総資本 回転率	総資本 自己資本 財務 レバレッジ

イ) 売上高経常利益率はX1年度 (25.0%) よりもX2年度 (23.3%) の方が低く、X1年度からX2年度にかけて悪化した。

* X1年度の売上高経常利益率25.0% = 経常利益500 / 売上高2,000 × 100

* X2年度の売上高経常利益率23.3% = 経常利益700 / 売上高3,000 × 100

【問10】⑤：(ア) 投下資本 (イ) 売上高

ア・イ) 資本回転率は投下資本が売上高を効率的に生み出しているかどうかの指標である。

$$* \text{資本回転率} = \frac{\text{売上高}}{\text{資本 (または資産)}}$$

【問11】③：(ア) 0.75 (イ) 高い

ア) X2年度の総資本回転率0.75回 = 売上高3,000 / 資産合計4,000

イ) 総資本回転率はX1年度 (0.57回) よりもX2年度 (0.75回) の方が高く、X2年度の方が資金効率や投資効率が高いといえる。

$$* \text{X1年度の総資本回転率0.57回} = \text{売上高2,000} / \text{資産合計3,500}$$

【問12】①：(ア) 正 (イ) 正

ア) 問題文の通り。

イ) 自己資本当期純利益率はX1年度 (11.1%) よりもX2年度 (12.6%) の方が高く、X1年度からX2年度にかけて改善した。

$$* \text{X1年度の自己資本当期純利益率11.1\%} = \text{当期純利益300} / \text{純資産2,700} \times 100$$

$$* \text{X2年度の自己資本当期純利益率12.6\%} = \text{当期純利益360} / \text{純資産2,850} \times 100$$

【問13】①：(ア) 正 (イ) 正

ア) 問題文の通り。

イ) 従業員1人当たり売上高はX1年度 (50) よりもX2年度 (75) の方が大きく、X1年度からX2年度にかけて労働効率が改善された。

$$* \text{X1年度の従業員1人当たり売上高50} = \text{売上高2,000} / \text{従業員数40} \langle \text{資料3} \rangle$$

$$* \text{X2年度の従業員1人当たり売上高75} = \text{売上高3,000} / \text{従業員数40} \langle \text{資料3} \rangle$$